

## 答申にあたって

近年の社会状況にあっては、少子高齢化の進展、高齢世帯や一人暮らし世帯の増加、地域の人々とのつながりの希薄化など地域社会を取り巻く環境が大きく変化する中で、福祉課題は複雑で多様化してきています。

こうした中、令和6年8月に、羽村市社会福祉協議会が策定する第六次羽村市地域福祉活動計画について会長から諮問を受け、各分野から選出された10名の委員により審議を進めてきました。

審議にあたっては、第五次羽村市地域福祉活動計画（以下「第五次計画」という。）の計画期間における状況を総括した資料により確認を行ったうえで、市内で活動する様々な分野の団体に対するアンケート調査や羽村市が実施した羽村市地域福祉計画策定基礎調査などを通じ、地域の福祉課題等の把握に努めるとともに、新たな福祉課題や支援が求められているニーズに対応した計画についての検討を重ねてきました。

第五次計画においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業が多くあったことから、今回の地域福祉活動計画の策定にあたっては、第五次計画の継承を基本とし、日々、福祉関係団体はもとより地域の様々な団体において活動している委員が、それぞれの立場に基づいた視点により、市民主体の地域福祉活動が継続的につながるものとなるようまとめてきました。

答申にあたり、今般、基本理念とした「みんなのしあわせ ひろがるまち はむら」を目指した地域づくりの実現に向けた取組が一層推進されることを期待します。

令和7年2月19日

第六次羽村市地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 雨倉久行